

白駒妃登美の
なでしこ
歴史物語
6

日本の悠久の歴史をひもとけば、そこにはわが国を支えてきた「なでしこ」たちの存在があります。福岡の人気歴史家・白駒妃登美さんに、そんななでしこたちの知られざる歴史物語を紹介していただきます。

博多の歴女 白駒妃登美



お市の方 (1547-1583)
織田信長の妹で“戦国一の美女”といわれる。初婚相手の浅井長政の死後、25歳年上の柴田勝家に嫁ぐ。娘には茶々・初・江の三姉妹がいる。

【イメージイラスト】アオジマイコ

三姉妹が受け継いだ「母の強さ」

— 愛の達人・お市の方 ② —

＊ 過酷な境遇にも

戦国一の美女・お市の方は最初の夫・浅井長政が滅ぼされる時には城から逃れて生き抜くことを選び、次に嫁いだ柴田勝家の時には生き切る、つまり夫と共に自害の道を選びました。

おそらく長政の時には幼い娘たちを育て上げるため母親として生きることを選択し、勝家の時には娘たちが自分の足で立って生きることを信じ、勝家の妻として潔く散ったのではないのでしょうか。

いずれにせよ、織田信長の妹として過酷な境遇にさらされながらも、必死に命を燃やしたお市の方の生き様は、確かに娘たちに受け継がれていた——。そんなお話を、今回はお届けしたいと思います。

＊ 戦国一有名な三姉妹

娘たちの名前は「茶々(淀殿)」「初」「江」。よくドラマや小説でも取り上げられますから、ご存知の方も多いでしょう。彼女たちがなぜこれほど有名かといえば、それは長女の茶々が時の天下人・豊臣秀吉に、三女の江が徳川家康の息子に嫁ぎ、後に両家は敵対関係となってしまったからです。

秀吉の死後、関ヶ原の戦いに勝利した徳川家は幕府を開き、豊臣家に代わって絶大な権力を築きます。やがては両家が決裂するのではと憂える者も多かったでしょう。そうした中、江の娘・千姫が茶々の息子・豊臣秀頼の元へと嫁いでいったのです。秀頼十一歳、千姫はわずか七歳でした。

夫婦の間に子が生まれ世継ぎとなれば、徳川と豊臣が手を握り合う日が来るかもし